

# 分苑たより

## なごみ

大本  
名古屋分苑

九州では線状降水帯が発生して大変な状況でしたが、天候が大きく好転し、全国的に真夏の熱い日にもどり八月十三日からシン少年祭が開催されました。

日頃の、練習での成果を一番で発揮されたと思います。とても良い結果報告有難うございました。

令和7年9月号

### 分苑長

#### 葉月 月次祭挨拶

サルートン

皆様こんにちは

葉月の月次祭にご参拝頂きありがとうございます。

八月七日、猛暑のなか瑞生大祭が聖地天恩郷で執り行われました。

前日の六日には宣伝使試補を対象とした月宮宝座参拝とみ手代下付が行われ、午後は宣伝使昇・新任研修会が行われました。

今年は全国で宣伝使試補三十六名、准宣伝使七十二名、正宣伝使三十一名の方が任命されました。

名古屋分苑では、宣伝使試補七名、准宣伝使四名、正宣伝使四名の方が任命されました。

七日瑞生大祭後の宣伝使辞令授与では、准宣伝使を代表して日比達朗様が教主さまで、瑞生大祭諸祭典が修了した

り拝受されました。

午後一時より一人一人に辞部で受け取られていない方は後程お渡しいたします。

瑞生大祭には、昨年より百五十三人多い八百三十二人の方が参拝されました。

又、六日と七日には、直心会のバザーが開催され、教主さまにおかれましては、ご多忙の中バザー会場にお越しになり、各地の方々と交流をされました。

その中で名古屋分苑の少年達が、模擬祭典の祓式行事では三位、朗詠では見事一位を獲得されました。

バザーの出展に協力された方また販売に携わられた方々、大変お疲れさまでした。

八月八日高熊山祭典・瑞泉苑祭典・小幡神社祭典が終わりマイクロバスまでの移動中、教主さまは沿道にお立ちになり参拝者を笑顔でお見送り戴き、とても感激いたしました。

瑞生大祭諸祭典が修了したのち全国的に大雨になり、南

り拝受されました。

令が手渡しされましたが、本部で受け取られていない方は後程お渡しいたします。

瑞生大祭には、昨年より百五十三人多い八百三十二人の方が参拝されました。

又、六日と七日には、直心会のバザーが開催され、教主さまにおかれましては、ご多忙の中バザー会場にお越しになり、各地の方々と交流をされました。

その中で名古屋分苑の少年達が、模擬祭典の祓式行事では三位、朗詠では見事一位を獲得されました。

又、六日と七日には、直心会のバザーが開催され、教主さまにおかれましては、ご多忙の中バザー会場にお越しになり、各地の方々と交流をされました。

その中で名古屋分苑の少年

達が、模擬祭典の祓式行事では三位、朗詠では見事一位を獲得されました。



●月次祭  
八月十七日（日）

参拝者二十八名

斎主 近藤 哲史

祭員 永島 和

祭員 妹尾 正治

祭員 日比 達朗

裏方 小林 清人

典礼長 飯田 直美

伶人 長谷川美枝

伶人 森 满政

進行

●月始祭  
八月二日（土）

参拝者 二十四名

斎主 畠山 茂

祭員 畠山 亜美

進行 高嶋フミ子



行事報告

●瑞生大祭献金バザー  
日頃、直心会献金にご協力いただきありがとうございます。

先日の瑞生大祭献金バザーでは、これまでの協力金・カンパ・本部でのバザー売上金を合わせて、二十五万円を本部直心会に収める事ができました。

本当にありがとうございました。

また来年のバザーに向けて皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。

直心会長 川地貴子

## 行事予定

九月十一日（木）

全国一斉世界平和祈願

九月二十一日（日）

月次祭・長寿感謝祭

午前十時半より

九月二十七・二十八日（日）

祭式講習会・葬祭研修会

午前九時より

十月四日（土）

月始祭 午後一時半より



## じいじの道草雑話

### 【親父】

特任宣伝使 妹尾正治

今朝は早く目が覚めたので庭の草むしりを思い立つた。

電柱のてっぺんでハトが『朝から元気・朝から元気』と言っているかの様に、こ

っちを見降ろしてやかましいほど鳴き続けている。

無心に草むしりをしていると、ふいに親父の顔が浮かんできた。

親父は仕事の合間の十五分の休憩でも、顔が見えないと、思うと裏の畠で草を抜いたり、梅について毛虫を素手で捕まえていた。

亥年生まれの血液型はO型、答えが出ない内から行動に移っていた。俗にいう「猪突猛進」の親父である。

とにかく「思いついたら直ぐに実行する人」「自分の事は二の次にして家族や他人に世話をやく人」そんな

そんな性分おかげで、四人の子供たちが結婚するまでには、土地と家を用意してくれた。

後から聞いた話だが、退職金を前借りしてまで子供たちに準備してくれた様だ。

親父は七十二歳でこの世を去った、今じいじは七十六歳。

人は亡くなるとそこで歳は止まり、残された者は歳をとり続ける。

親父の背中を追い続けて生きて来て、いつの間にか親父の年を追い越してしまった。

まだまだ長生き以外は足元にも及ばない。

この歳になつてもじいじの憧れの人は親父である。